

第20期第2回常任理事会議事録

日時 昭和53年9月27日(水) 15.00~18.00

場所 気象庁海洋気象部会議室

出席者 岸保, 小平, 浅井, 植村, 奥田, 神山, 河村, 新田, 松本, 増田, 山下.

報告

[庶務]

1. 8月28日, 文部省学術国際局長から, 昭和53年度研究費補助金(研究成果刊行費)の交付決定について通知があり, 同じく文部大臣から交付決定通知書がきた(金額193万円).

2. 9月4日, 理化学研究所理事長から, 同所設立20周年記念科学講演会(11月18日(土)於経団連会館)の協賛ならびに“天気”に案内記事掲載方依頼がきた(本日の議題とする).

3. 9月6日, 大阪府立放射線中央研究所真室哲雄氏から, 日産学術研究助成候補推薦書の提出があった(本日の議題とする).

4. 9月7日, 日本航空宇宙学会から, 第25回風に関するシンポジウムプログラムを“天気”に掲載方依頼がきた.

5. 9月7日, 数値予報研究グループ世話人から, 気象学会月例会「大気数値シミュレーション(仮称)」の設立について要望がきた(本日の議題とする).

6. 9月12日, 計測自動制御学会から, 第4回リモートセンシングシンポジウムプログラム掲載の依頼がきた.

昭和53年度学会奨励金受領者投票結果

投票総数 25票

- | | | | |
|----------|----|--------|----|
| 1. 浦野 弘 | 会員 | 可とするもの | 25 |
| 2. 伊豆味正吉 | 〃 | 〃 | |
| 春日 信 | 〃 | 〃 | |
| 3. 島村泰正 | 〃 | 〃 | |

したがって, 上記4名が受領者と決定した.

[天気]

1. 広告は, 写真が多く裏がすけて見えるので, 紙質を良くしたい. また, 広告掲載のあり方を検討し, 表紙裏(表紙2)は投稿規定を載せるようにしたい.

2. 予算上年間780頁の計画であるが, 今年は9月号までで708頁に達している. 編集のあり方も考慮すべきだが, 次年度は“天気”の増頁をお願いしたい.

3. “天気”の新しい企画として口絵を入れる. 年間

カラーで3頁とし, 一応2カ年とする.

4. 論文は, 底辺を広げて誰にも読めるものにした. したがって, 原稿を書いて貰う範囲を拡大する.

[長期計画]

データセンターに関する打ち合わせ事項については, 次の理事会で報告する.

[気象集誌]

年間のインデックスの作成を検討中である. 56巻5号は16編の多きに達している.

投稿料の免除については, 原則として投稿料を支払わねばならないが, 編集委員会で理由が認められた場合は, 免除することができる.

[講演企画]

気候変動シンポジウムの実行計画, 秋季大会プログラム編成会議の結果および来年度春季大会のシンポジウムの件について, 報告があった.

[教育と普及]

1. 「天気」普及講座, ①今後の予定テーマ:(11月号)大気放射(会田), (12月号)雪の観測(菊地), 人間活動と気候(土屋), 大気汚染(大喜多), 雪(畠山), 大気大循環(片山), 南極・北極の気象, 局地気象・気候, 太陽活動, 超高層気象, 日本の四季の天気. ②今後のテーマの中に総論的なものを入れて各講座の横の連絡をよくする. ③これまで印刷された講座を検討し, 表現, 説明の仕方, テーマの取り上げ方を検討する.

2. 夏季大学, ①アンケートの結果を「天気」に掲載する. 参加者に学生が増加してきたので教員との扱いの区別が必要. もっと手でさわり目で見えるものの実験や実習を多くしてほしい. 教育現場に即したものがほしい. テーマとしては, 台風, 雲, 雪などに希望が多い. ここでの結果を今後の運営に反映させたい. ②地方開催の件. ③開催中, 一部分科会形式とし, 学生と教員をわけける件.

3. 新しい活動, 具体案は次回以降に提出する.

①小委員会設置の方向. 一気象教育研究会(仮称). ②気象教材の作成. ③学校教育用の教材・測器の紹介あっせん. ④都道府県教育センターや教育研究所との連絡. ⑤学校関係以外の一般の気象, 気候のユーザーへの普及.

以上, 新しい活動を推進してゆくためには, 財政的裏付けがぜひ必要である.

〔学術会議〕

FGGE のデータ利用の問題で、地物研連気象分科会と GARP 小委員会の合同会議が開かれた。委員外の新田尚氏の説明を受け WDC (World Data Center) より磁気テープを購入の方が便利なのことがわかったが、具体的には今後さらに協議することになった。また、MAP (Middle Atmosphere Programme) に関する勧告案は、10月5日に開かれる学術会議の運営委員会で審議され、秋の総会へ提出される予定である。

議 題

1. 気象学会月例会「大気数値シミュレーション (仮称)」の設立について。

NP (数値予報研究グループ) 世話人 井沢竜夫会員ほか4名の連名で申し入れがあり、協議した結果設立を承認することにした。詳細については、講演企画担当理事と打ち合わせて貰うこととした。

2. 第5回 (昭和53年度) 日産学術研究助成候補者の推薦について。

大阪府立放射線中央研究所真室哲雄氏から推薦依頼書が提出されたので、あらかじめ新田担当理事が、小野晃会員 (名大水圏科学研究所)、原田朗会員 (気象研究所)、三崎方郎会員 (気象研究所) から意見の提出を求め、これらの資料を参考にして審議した。その結果、意見もわかれており、また春・秋の大会などで研究発表をしていないし、もう少し時期をみた上ということになった。

3. 新しい賞の設置について

新田理事から、事務局で調べた他学会 (土木学会、電

気学会、日本海洋学会、日本化学会) の出している賞について、また、本人が調べた諸外国 (アメリカ、イギリス、カナダ) の賞について、まとめた資料について報告。新しい賞について提案があった。

これについては、次回理事会で意見を出して貰い、煮つめたものを11月の全国理事会の議題とし、来年春の総会に提案することとする。

4. その他

1) 理化学研究所設立20周年記念科学講演会の協賛について。

協賛することを了解、プログラムは“天気”10月号に掲載する。

2) 気候変動シンポジウムの講師招聘の旅費について。

増田理事から、12月7日気象庁講堂で実施予定の気候変動シンポジウムの講師を地方の大学から招聘するための旅費についての案が出されたが、この件は、前担当者とも打ち合わせ、旅費および講師謝金のことをもう少し検討した上で次回に再度提案されることになった。

3) 来年度春季大会のシンポジウムについて。

増田理事から、来年度春季大会の運営担当は、気象庁観測部であるため、講演企画委員会では、シンポジウム議題として i) リモートセンシング、ii) データバンクの案が挙げられたが、いずれ観測部側と話し合って意見を聞き臨時に委員会を開いて再検討すると報告された。

これについて討議した結果、学会主体として講演テーマを年次的に考えておくようにする。

承認事項 真野裕三ほか18名の新入会員を承認。